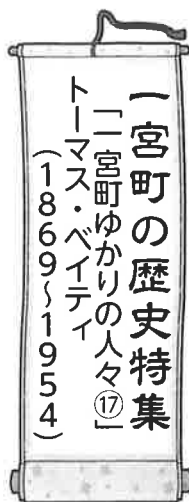


令和元年12月号



トーマス・ベイティはイギリスの著名な国際法学者で、大正5年(1916)に日本政府の要請で外務省の法律顧問に就任し、開戦直前の昭和16年(1941)までこの職を務めた人物です。

戦前は日本の法律顧問として、日本の中国における立場(満州国の建國など)を一貫して擁護しました。開戦前夜の昭和16年、日英関係が悪化する中でイギリスへの帰国を勧告されますが、「わたしの場合、帰国することとは、平和への希望を全て捨て去ることである」として日本にとどまりました。

開戦後、法律顧問の職を辞しますが、その後彼の書いた論評には連合国(米英など)への批判が書かれており、親日的な立ち位置にあったと思われる。

しかしながら、戦中は軍部や警察から「敵性外国人」ということで、様々な嫌がらせを受けたため、日光・中禅寺湖に疎開していました。

戦後、戦前の日本政府への協力を理由として、東京の英国大使館により戦後旅券発給が拒否されてしまいました。祖国からは「反逆者」として

の汚名を着せられたまま、亡くなるまでイギリスへの帰国を認められませんでした。

昭和24年(1949)、時の吉田茂首相の配慮により、吉田が親交のあった加納久朗の一宮町追手の別邸へ転居しました。一宮ではベイティは町民の人々とよく交流していたといえます。

昭和29年(1954)2月9日、一宮にて死去。享年85歳。



▲晩年のトーマス・ベイティ(同「黄昏の国際法」より)



▲加納久朗別邸(戦後の絵葉書)ベイティが居住したと思われる

【問合せ】教育課 (42)1416

令和2年1月号



貝殻塚貝塚は現在の一宮中学校からみて北西付近にある貝塚で、丘陵の突端に位置しています。「貝殻塚」という小字が残っている通り、古くからこの一帯が貝塚であると認識されていたことが分かります。昭和53年(1978)に町の指定史跡となつていますが、現状、貝塚の様子を目視することはできません。

昭和12年(1937)に発掘調査が行われ、海拔約10mの緩斜面に厚さ約20~30cmの貝塚が形成されていました。年代は約4,000年前の縄文時代前半と推定され、磨製石斧、石皿、土偶、骨製品、貝輪に加え、釣り針などの漁労用具も確認されています。

また、チョウセンハマグリやダンベイキサゴ(ナガラミ)、クログダイ、マグロ、フグ、クジラ、サメ、カメの骨格片、岩礁につくアワビ、サザエ、コダマガイなども見られ、出土した魚介類から外洋性貝塚の特色が見られます。

写真はこの発掘調査時に見つかったものではありませんが、貝殻塚貝塚から出土したものと伝わっています。

千葉県は海に面している地域が多く、県内各地に多くの貝塚があります。千葉市の加曾利貝塚は平成29年(2017)に国の特別史跡に指定されています。さらに、袖ヶ浦市の山野貝塚が、平成29年(2017)に国の史跡に指定されており、貝塚は千葉県の縄文時代を語る上で欠かせないものだといえるでしょう。



▲貝殻塚貝塚出土の貝類と伝わる。(一宮町教育委員会所蔵)

【問合せ】教育課 (42)1416

(教育委員会 江澤一樹)